

第21回 坊っちゃん文学賞 作品募集

令和6年5月1日から9月30日まで作品を募集します。

4,000字以内のショートショートを募集

大賞賞金50万円(1名)、佳作賞金10万円(5名)

大賞作品は雑誌「ダ・ヴィンチ」に掲載

「坊っちゃん文学賞」は、市制100周年を機に、近代俳句の父・正岡子規を生み、明治の文豪・夏目漱石の小説『坊っちゃん』に描かれた街という、松山市の豊かな文学的土壌を生かして、新しい青春文学の創造と本市の文化的なイメージを高め、全国にPRするため昭和63年に創設され、受賞後も活躍を続ける作家や人気作品を生み出してきました。

第16回からはショートショートの文学賞としてリニューアルし、第20回は、全国47都道府県に加えて海外からも作品が寄せられ、8,014点の応募をいただきました。また、作品の原文をそのまま用いる「よみ芝居」公演は、多くの皆さんから大変好評で、今年も公演を予定しています。詳細は決まり次第、お知らせします。

ショートショートは、書く楽しさを感じてもらいやすく、世代を問わず参加でき、文学の間口を広げる力があります。俳句と同じく短いことばで表現する特長を生かし、この賞を「文学の入り口」として、これまで本市が取り組んできた「ことばと文学のまち松山」の魅力をさらに広く発信したいと考えています。

これまで「ことばと文学のまち松山」を一緒に育ててくださった市民の皆さんや全国の文学ファンの皆さんに感謝するとともに、一人でも多くの方に応募いただき、「坊っちゃん文学賞」をより一層大きく育てたいと考えています。温かいご支援とご協力をお願いします。

《審査員》幅広い分野から、ショートショートの魅力を最大限に引き出せる方々に審査をしていただきます。

審査員長 田丸 雅智 (たまる まさと)



1987年、愛媛県松山市生まれ。松山東高卒、東京大学工学部卒、同大学院工学系研究科修了。現代ショートショートの旗手として執筆活動に加え、坊っちゃん文学賞などにおいて審査員長を務める。また、全国各地で創作講座を開催するなど幅広く活動している。ショートショートの書き方講座の内容は、2020年度から小学4年生の国語教科書(教育出版)に採用。2021年度からは中学1年生の国語教科書(教育出版)に小説作品が掲載。著書に『海色の壇』『おとぎカンパニー』など多数。メディア出演に「情熱大陸」「SWITCH インタビュー達人達」など多数。

田丸雅智 公式サイト: <https://masatomotamaru.com/>

審査員 大原 さやか (おおはら さやか)



声優、ナレーター。アニメ出演作として「マイホームヒーロー」(鳥栖歌仙)、「xxxHOLiC」(菅原侑子)、「FAIRY TAIL」(エルザ・スカーレット)、「美少女戦士セーラームーン」(海王みちる・セーラーネプチューン)、「Fate/zero」(アイリスフィール)、「ARIA」シリーズ(アリシア・フローレンス)、「カレイドスター」(レイラ・ハミルトン)、「夏雪ランデブー」(島尾六花)等多数。第7回声優アワード助演女優賞受賞。au(携帯電話)留守番電話サービス音声や、京王線・京急線など関東圏5割以上の私鉄ホームアナウンスを20年以上担当。自身のライフワークである朗読番組「月の音色~radio for your pleasure tomorrow~」はインターネットラジオステーション音泉にて好評配信中。

審査員 山戸 結希 (やまと ゆうき)



映画監督。2014年、日本映画プロフェッショナル大賞新人監督賞を受賞。2016年、映画『溺れるナイフ』が60万人以上を動員し、20代女性の監督作品において前例のない興行記録となる。2019年、TAMA映画賞最優秀新進監督賞を受賞。2021年、ドラマ『生きるとか死ぬとか父親とか』にて、初のテレビドラマのシリーズ構成、監督を務める。RADWIMPS、乃木坂46、Aimer、back numberら多数アーティストのミュージックビデオの映像監督を務め、大手企業の広告映像も手掛ける。最新作は、NHKドラマ『藤子・F・不二雄 SF 短編ドラマ』シリーズ1&2の脚本・演出を務めている。

《アンバサダー》SNSなどで全国に情報を発信し、坊っちゃん文学賞をPRしていただきます。

白濱 亜嵐 (しらはま あらん)



1993年8月4日生まれ、愛媛県松山市出身。

2012年11月、GENERATIONS from EXILE TRIBE パフォーマーとしてメジャーデビュー。2014年4月にEXILE新パフォーマーに決定し、EXILEに加入。

GENERATIONSのリーダーも務め、EXILE/PKCZRと兼任しながら活動している。

2023年2月にはフィリピン観光大使に就任。

また、俳優としての主な出演作にはドラマ「シュガーレス」、「GTO」、「小説王」、「M 愛すべき人がいて」、映画「ひるなかの流星」、「コンフィデンスマン JP プリンセス編」、「10万分の1」などにも出演。

さらにDJ(楽曲制作)としても活動し、マルチに活動の場を拓けている。

受賞作品の感想を募集します

第20回に引き続き、受賞作品の感想を募集します。

第21回の受賞作品の感想をホームページで募集し、応募者の中から抽選で、松山市ゆかりの品を贈ります。また、感想は、入賞作品の作者へお伝えします。

これまでショートショート作品を読んだことがない方などに読むきっかけにもらい、受賞者には今後の創作活動で生かしてもらいたいと思います。

第21回坊っちゃん文学賞 募集要項

ここはあなたの「文学の入り口」です。アイデアとそれを生かした印象的な結末のあるショートショートに応募をお待ちしています。

募集作品

- ・ 4,000字以内のショートショートを募集します。
- ・ テーマは問いません。あなたの想像力を作品に生かしてください。
- ・ 日本語で書かれ、未発表で筆者自身のオリジナルな作品に限ります。

応募資格

- ・ 年齢、職業、国籍、プロ・アマは問いません。

応募方法・募集締切

- ・ インターネットでの応募: 令和6年5月1日(水)8時30分から9月30日(月)23時59分までに、公式サイトのお応募フォーム([https:// bocchan-shortshort-matsuyama.jp](https://bocchan-shortshort-matsuyama.jp))から応募してください。
- ・ 郵送での応募: 令和6年5月1日(水)から9月30日(月)(必着)までに、作品タイトル、著者名(公開可能な名前)、本名、生年月日、職業、郵便番号、住所、電話番号、メールアドレス(あれば)、賞を知った経緯、過去の坊っちゃん文学賞応募の有無を書いて、〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-12-8-2F 株式会社パシフィックボイス「第21回坊っちゃん文学賞」係へ。
応募原稿の体裁、書式、縦書き、横書きは自由です。

審査員

審査員: 田丸雅智、大原さやか、山戸結希 アンバサダー: 白濱亜嵐

賞

大賞(1名): 賞金 50万円 佳作(5名): 賞金 10万円

発表・表彰式

- ・ 結果発表と表彰式は令和7年1月末から2月頃を予定しています。
- ・ 最終審査を通過した作品の作者へは直接通知します。
- ・ 受賞者は表彰式にご出席ください(旅費は松山市が負担します)。
報道機関からの写真撮影やインタビューへのご協力をお願いします。
- ・ 大賞作品は雑誌「ダ・ヴィンチ」に掲載します。

注意事項

- ・ 1人で何作品でも応募できます。
- ・ 応募作品の差し替え、修正は受け付けません。
- ・ 応募作品は返却しません。
- ・ 大賞、佳作受賞作品の著作権は松山市に帰属します。
- ・ 選考に関するお問い合わせには応じられませんのでご了承ください。
- ・ これまでにWEB上へ掲載したことがある作品は未発表とはみなしません。
- ・ 作品に個人情報や実在の企業名等を使用することや、他の文学賞などへの二重投稿はご遠慮ください。

お問い合わせ

松山市役所 文化・ことば課

電話 089-948-6634 ファクス 089-934-1913

メール bocchan@city.matsuyama.ehime.jp

＜参考資料＞これまでの「坊っちゃん文学賞」

開催年	回	応募数	大賞・受賞者	大賞・作品名	備考
S63～ H元	第1回	1,386	月本 裕	『今日もクジラは元気だよ』 (改題: キャッチ)	
H2～3	第2回	740	中脇 初枝	『魚のように』	受賞時は高校3年生。その後、坪田譲治文学賞(2013年)や2016年本屋大賞3位など
H4～5	第3回	1,057	光山 明美	『土曜日の夜～ The Heart of Saturday Night』	
			巖谷 藍水	『ノスタルジア』	受賞時は高校3年生
H6～7	第4回	1,164	敷村 良子	『がんばっていきまっしょい』	1998年映画化、2005年テレビドラマ化、 2024年劇場アニメ化
H8～9	第5回	1,037	大武 完	『映写機カタカタ』	
H10～11	第6回	910	長屋 潤	『マジックドラゴン』	
H12～13	第7回	811	鬼丸 智彦	『富士川』	
			瀬尾 まいこ	『卵の緒』	『そして、パトンは渡された』で2019年本屋大賞受賞
H14～15	第8回	1,008	浅井 柑	『三度目の正直』	受賞時は高校3年生
H16～17	第9回	1,067	大沼 紀子	『ゆくとし くとし』	
H18～19	第10回	1,048	甘木 つゆこ	『タロウの鉗子』 (改題: はさんではさんで)	
H20～21	第11回	1,138	ふじくわ 綾	『右手左手、左手右手』	
			村崎 えん	『なれない』	
H22～23	第12回	1,057	真枝 志保	『桃と灰色』	
H24～25	第13回	1,060	桐 りんご	『キラキラハシル』	
H26～27	第14回	911	卯月 イツカ	『名もない花なんてものはない』	
H28～29	第15回	小説 854	鈴川 紗以	『ルカの麒麟』	15回の節目と子規・漱石生誕150年を記念し、 ショートショート部門を設置
		ショートショート 1,087	塚田 浩司	『オトナバー』	
R元	第16回	5,628	高野 ユタ	『羽釜』	『ひやくいろ節眼鏡』で株式会社ベルモニー presents ショートショートコンテスト最優秀賞 受賞(2020年)
R2	第17回	9,318	山猫軒従業員・ 黒猫	『ドリームダイバー』	
R3	第18回	6,952	椿あやか	『月光キネマ』	
R4	第19回	7,026	そるとばたあ	『ジャイアントキリン群』	
R5	第20回	8,014	望月 滋斗	『ライフ・イズ・ア・ムービー』	

○平成元年の市制 100 周年を記念して、昭和 63 年から、斬新な作風の青春文学小説の募集を開始。全国の多くの市が市制 100 周年を迎え、記念事業として文学賞を開催する中で、「坊っちゃん文学賞」は自治体文学賞の先駆けになった。

○審査員は椎名誠氏(審査員長)、早坂暁氏、景山民夫氏、中沢新一氏、高橋源一郎氏の 5 名で開始。平成 10 年に景山氏が死去、平成 29 年に早坂氏が死去。

○第 15 回までは 2 カ年事業として実施。初年度は募集、翌年度は審査・発表を行う。第 16 回からは、ショートショートの文学賞としてリニューアルし、毎年実施。

○第 4 回大賞の『がんばっていきまっしょい』のように映画化やテレビドラマ化される作品が生まれるなど、新人

作家の登竜門になり、「ことばと文学のまち松山」を代表する取り組みの一つ。

○第7回大賞の瀬尾まいこ氏が『そして、バトンは渡された』で2019年本屋大賞を受賞。

○第15回から第17回受賞のショートショート作品を収録した書籍『夢三十夜』が令和3年6月に出版。